

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年10月27日
- 事業名 : ニラサキサラニ ～実践型若者プレイヤーズ育成プロジェクト
- 資金分配団体 : 認定特定非営利活動法人富士山クラブ（甲信地域休眠預金等活用コンソーシアム）
- 実行団体 : 特定非営利活動法人河原部社

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
若者プレイヤーたちがいつでもコミュニティにアクセスでき、自分以外の若者プレイヤーとの交流や今後の活動につながる情報共有の機会を提供する。	①若者プレイヤーのコミュニティが生まれたかどうか ②コミュニティへの参加人数 ③若者プレイヤーが情報交換・交流するための拠点（オンライン/オフライン）が整備されたかどうか ④交流拠点の運営収支状況 ⑤コミュニティ参加者同士のオンライン/オフラインでの交流（イベント）回数	①コミュニティが形成されている。 ②30人 ③オンライン/オフラインでの交流拠点がある。 ④黒字化している。 ⑤5回	①2021/10 ②2024/3 ③2022/1 ④2024/3 ⑤2024/3	①TUM キックオフミーティングの実施・オンラインコミュニティへの加入を持ってコミュニティが生まれていると判断。 ②2021年9月8日に初期メンバー7名でオンラインコミュニティ立ち上げ後、2022年9月30日現在16名が加入。 ③拠点の整備が完了している。 ④拠点の運営が開始したばかりのため、収支計算は行っていない。 ⑤未実施	2

<p>若者プレイヤーのコミュニティでプロジェクトが立ち上がり、若者プレイヤーがプロジェクト立ち上げのスキルや経験を得る機会を提供する。</p>	<p>①プロジェクト立ち上げに関わるワークショップ・ディスカッションイベントの実施回数 ②実践されたプロジェクトの数 ③プロジェクトの種類の多様性で測定 ④自走しているプロジェクトの数</p>	<p>①3回 ②4プロジェクト ③2つ以上の異なる分野からプロジェクトが生まれている ④2プロジェクト</p>	<p>①2024/3 ②2024/3 ③2024/3 ④2024/3</p>	<p>①未実施 ②0件 ③プロジェクト未実施のためなし ④0件</p>	<p>3 ※事業計画書のアウトプットに対する活動時期に基づいて判断</p>
<p>コミュニティの存在や若者プレイヤーの活動を可視化し、地域内外の若者に広く認知されるための活動を実施。</p>	<p>①拠点開放日の利用者数 ②情報公開の回数</p>	<p>①利用者延べ数 20人/月 ②月1回</p>	<p>①2024/3 ②2024/3</p>	<p>①拠点開放をしていないため計測なし ②2021年5月よりnoteにて計10回の活動報告を実施</p>	<p>3 ※事業計画書のアウトプットに対する活動時期に基づいて判断</p>
<p>実行団体が持つ、地域社会や行政等のステークホルダーなどの人的資源を若者プレイヤーとつなげる仕組みを構築する。同時にステークホルダーと直接繋がる機会を提供する。</p>	<p>①地域のステークホルダーと若者プレイヤーの交流の回数と状況</p>	<p>① 年10回</p>	<p>①2024/3</p>	<p>Noteを活用し、進捗報告及びイベント開催のお知らせを合計3回更新（2022年5月7日、6月18日、7月5日/2022年4月～8月末日の間） ※③広報参照</p>	<p>3 ※事業計画書のアウトプットに対する活動時期に基づいて判断</p>

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
新型コロナウイルス拡大時期のイベント実施については、行政から行動制限に関する通達がなかったため、オフラインで開催したこともあったが、人数を絞っての開催とした。 本事業はPM 1名、専従者 1名の計 2名体制のため、万が一スタッフの新型コロナウイルス感染により業務が滞るリスクがあることから、クラウドサービスやオンラインタスク管理サービスを利用し、事業の実施状況や実施内容について専従スタッフを介在せずともアクセスできるような仕組みを構築した。

③ 広報 (※任意)

1. メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等)

<https://note.com/kawarabe/m/m1d76e81407f3>

https://www.instagram.com/workspace_tum/

2. 広報制作物等

WORKSPACE TUM ショップカード (2022年8月作成/発行枚数 200枚/WORKSPACE TUM 広報のため作成)

3. 報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	中間評価スケジュール・予算マネジメント	安里高祐	NPO 法人河原部社事務局長
内部	中間評価報告書作成、データ収集・分析	本田美月	NPO 法人河原部社休眠預金事業 プロジェクトリーダー
外部	評価計画及び評価報告書作成の指導・助言	高橋潤	公益財団法人長野県みらい基金 理事長 甲信地域休眠預金等活用コンソーシアム プログラム・オフィサー
外部	評価計画及び評価報告書作成の指導・助言	青木直子	認定 NPO 法人富士山クラブ 甲信地域休眠預金等活用コンソーシアム プログラム・オフィサー
外部	評価計画及び評価報告書作成の指導・助言		日本ファンドレイジング協会

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
コミュニティ内の若者プレイヤー	若者プレイヤーコミュニティ内で活発な交流・情報共有が生まれているか、及びコミュニティ形成前後の若者プレイヤーたちのプロジェクト立ち上げに対する関心度の変化を直接観察・アンケートによって測定。	コミュニティへの参加を通して、若者プレイヤーとして自らプロジェクト立ち上げへの興味関心・意欲があり、プロジェクトへも積極的に参加したいと思っている。	2023 年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点が想定よりも積極的に活用されており、偶然その場に居合わせた若者同士の交流が生まれている。事業開始前と比較して交流の機会が生まれている。 ● 交流の機会が増えている一方で、プロジェクト立ち上げにつながるような情報交換が行われているとは言えない状況である。 <p>情報交換の頻度の低さからも、プロジェクト立ち上げに対する関心度の変化は見られない。</p>
コミュニティ内の若者プレイヤー	プロジェクト参加前後の若者プレイヤーたのプロジェクト立ち上げへのビジョンの変化を直接観察・アンケートによって測定。	プロジェクトへの参加を通して、自らプロジェクトを行うために必要な経験やスキルをひと通り持っており、いつでも新規プロジェクトを立ちあげられる状態になっている。	2024 年 3月	TUM 内でプロジェクト立ち上げに至っていないため、現段階では自身のプロジェクトの描き方・ビジョンに変化はない。

コミュニティ外の若者プレイヤー	活動報告がコミュニティ外の若者に届いているかを報告媒体へのリーチ数で測定。 コミュニティ内の若者プレイヤーによる活動に対する認知の度合い、活動から受けた影響の有無・程度を関係者にヒアリングで測定。	コミュニティやプロジェクトの認知が進み、コミュニティ外の若者が地域活動団体や事業の立ち上げに興味関心がある。	2025年 3月	休眠預金事業開始時よりnoteを媒体に月1回程度活動報告およびイベント開催告知を行ってきたが、初投稿の2021年6月28日以降2022年10月25日現在、記事の総ビュー数は1998、総コメント数は0、総スキ数は92だった。
コミュニティ内外若者プレイヤー	プロジェクト参加前後において、地域社会や行政とのつながりの程度を直接観察・アンケートによって測定。	地域社会や行政とのコネクションがあり、あらゆる若者プレイヤーが地域社会へ参画できる状態にある。	2024年 3月	一部の若者プレイヤーにはすでに地域社会への参画につながるようなコネクションがあるが、TUMを通しての活動が開始したばかりのため、今後TUMへの参加・プロジェクトへの参加を通して地域社会や行政とのつながりを広げていく若者プレイヤーが多数である。
コミュニティ内の若者プレイヤー	若者プレイヤーコミュニティ内で活発な交流・情報共有が生まれているか、及びコミュニティ形成前後の若者プレイヤーたちのプロジェクト立ち上げに対する関心度の変化を直接観察・アンケートによって測定。	コミュニティへの参加を通して、若者プレイヤーとして自らプロジェクト立ち上げへの興味関心・意欲があり、プロジェクトへも積極的に参加したいと思っている。	2023年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点が想定よりも積極的に活用されており、偶然その場に居合わせた若者同士の交流が生まれている。事業開始前と比較して交流の機会が生まれている。 ● 交流の機会が増えている一方で、プロジェクト立ち上げにつながるような情報交換が行われているとは言えない状況である。 <p>情報交換の頻度の低さからも、プロジェクト立ち上げに対する関心度の変化は見られない。</p>



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>拠点整備が終わり、今後はコミュニティマネジメント・プロジェクト立ち上げに向けた活動により一層注力できる状態になったこと、事業実施体制の改善により人員が確保できたこと、中間報告実施に伴う事業計画の見直しにより活動内容がより明確になったことから判断した。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動は計画通りに実施されているか。	活動は計画より遅れていると評価する。	<p>詳細な進捗状況については、進捗報告書 1. 実績値を参照。</p> <p>アウトプット 1 〈若者プレイヤーたちがいつでもコミュニティにアクセスでき、自分以外の若者プレイヤーとの交流や今後の活動につながる情報共有の機会を提供する。〉 →コミュニティづくりについては概ね計画通りに実施されている。一方で拠点づくり・拠点の運営に関わる活動は達成出来ているものの、7ヶ月～8ヶ月ほどの遅れが生じている。運営体制の整備や運営会議の実施等の運営に関する活動はまだ手がつけられていない状況。</p> <p>アウトプット 2 〈若者プレイヤーのコミュニティでプロジェクトが立ち上がり、若者プレイヤーがプロジェクト立ち上げのスキルや経験を得る機会を提供する。〉 →上記アウトプット 1 の実施の遅れに伴い、プロジェクト立ち上げに向けた WS やディスカッションの実施が予定より 1 年ほど遅れている。</p> <p>アウトプット 3 〈コミュニティの存在や若者プレイヤーの活動を可視化し、地域内</p>

		<p>外の若者に広く認知されるための活動を実施。)</p> <p>→拠点整備の遅れに伴い、拠点開放の予定も8ヶ月ほど遅れている。情報公開に関する活動は月1回のnoteの更新を目標に、概ね達成してきていたが、タスク量が増えた2022年7月以降更新が滞っている。</p> <p>アウトプット4</p> <p>〈実行団体が持つ、地域社会や行政等のステークホルダーなどの人的資源を若者プレイヤーとつなげる仕組みを構築する。同時にステークホルダーと直接繋がる機会を提供する。〉</p> <p>→ステークホルダーと若者をつなげる活動は当初予定から8ヶ月経つが、実施に至っていない。</p> <p>【原因】</p> <p>建設業者による拠点の改装見積もりが想定よりも時間がかかり業者選定に時間がかかったこと、コロナ禍やロシア・ウクライナ問題で資材の供給が滞り工事の着工が遅れたことで、拠点の完成が予定よりも大幅に後ろ倒しになった。</p> <p>拠点の完成が後ろ倒しになったことで空いた時間を、当初の計画にはなかった拠点裏にある休耕農地をシェアガーデンにする活動に充てたため、アウトプット2～4の活動を前倒しして実施することで全体的な活動の遅れを減らすことが出来なかった。</p> <p>直接的な事業遅れの原因は上記の通りであるが、①事業計画の活動内容をさらに細分化・必要作業量を算出し、現状の実施体制で対応可能なのか ②現在に至るまでの実施状況を分析し、作業効率を改</p>
--	--	--

			善すべき部分はないか について今後分析し、残りの期間で短期アウトカムを達成するために必要に応じて事業計画を修正することとする。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業の進捗に伴い、必要な実施事業の見直しが行われているか。	実施事業の見直しは適宜行われていると評価する。	事前評価および中間評価結果に基づき、資金分配団体および評価アドバイザーによる助言を元に二度に渡って事業計画を更新・修正済みであること、事業の実施体制についても 2022 年 7 月に改善の検討・変更を行っていることから必要な見直しが行われていると判断。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業の進捗状況・活動状況が適切に記録され、共有できる状態にあるか。	事業の活動状況の記録方法、共有方法について検討の余地があると評価する。	中間評価報告書 A)事業のアウトカムの進捗状況の評価、①短期アウトカムの進捗状況の短期アウトカム3で記述している通り、note を使って情報発信を行ってきたが、コミュニティ外の若者からのイベント参加の問い合わせや活動そのものの反響 (TUM MATE 加入に関する問い合わせ等) は少なかった。note の記事の pv 数やスキの数からも、受益者・地域社会へ情報が開かれているとは言い難く、活動状況の記録方法および共有方法について再検討の余地があると判断した。 今回の評価結果を受け、中間評価終了後の 11 月中を目処にメディアの再検討、情報拡散方法の検討、更新頻度や更新内容の改善を行っていくことを内部事業担当者間で合意した。
組織基盤強化・環境整備	助成終了後も活動を継続していくための出口戦略の検討がなされているか。	助成終了後の事業継続に向けた資金計画および運営計画の検討は開始されていない。	事業の実施と中間評価の実施を同時並行して行う中で、資金計画の策定検討を実施する人的・時間的余裕に限界があり、中間評価報告書提出に合わせての検討を見送った。 年内には計画策定ができるよう検討していく予定であることを事業担当者間で合意。

組織基盤強化・ 環境整備	助成終了後も TUM PROJECT が継続していくための出口戦略の検討がなされているか。	助成終了後の TUM PROJECT 継続に向けた出口戦略の検討は開始されていない。	TUM PROJECT が立ち上がっていないため、出口戦略の検討は未実施である。
-----------------	---	--	--

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

受益者間のコミュニケーションを促進する手段として、拠点の存在が大きくプラスの方向に作用している。想定より拠点の活用が進んでいるため、若者プレーヤー同士が顔を合わせる機会が多く、コミュニケーションをとるきっかけになっている。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

団体全体に関わる成果として、事業計画の策定方法（特に中長期アウトカム～短期アウトカム～アウトプット～活動内容のひもづき）、事前評価・中間評価を通じた事業計画見直しと改善方法の学びを他事業にも反映させ、団体全体の底上げをしていきたいという意向が事業担当者の中で生まれている。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価結果を受けて、全てを即座に事業計画に反映できたわけではないものの、評価実施の過程で事業計画の改善点を洗い出すことができた判断した。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

拠点づくりに時間がかかってしまったが、拠点を通して若者プレーヤーが繋がり、プロジェクトを立ち上げていくことが本事業の最も大事な活動なので、まずはコミュニティを活性化させるためのコミュニティデザイン・マネジメントに注力していきたい。具体的には、以前はコミュニティメンバー全員にフラットにイベントなどの声かけを行ってきたが、今後はプロジェクトへの興味が強い人、コミュニティに積極的に参加している人を中心にイベントの企画段階から巻き込む→コミュニティ参加の機会を増やす→プロジェクト立ち上げに繋げていく等の戦略を検討・実行し、そこからプロジェクトへの興味・関心が薄い人へも波及できるようなコミュニティマネジメントにあたりたい。

加えて、助成終了後の本事業の出口戦略の検討についても速やかに実行したい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

